

科学研究費補助金(基盤研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充」主催  
長野教育文化振興会協力

## 2013年度秋期【新・古典を読む-歴史と文学-】

### 第2回『御堂関白記』と近衛家陽明文庫 —陽明文庫所蔵『御堂関白記』の 世界記憶遺産登録を記念して—

開講日時：10/20(日) 午後2:30～4:30

講義会場：金鵒会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：東京大学 史料編纂所 古代史料部門 教授  
田島 公(たじま いさお)先生

概要：2013年6月、藤原道長の日記・国宝『御堂関白記』自筆本14巻・古写本12巻は、国連教育科学文化機関(ユネスコ)が実施する「世界記憶遺産」(Memory of the World)に登録された。陽明文庫は、藤原北家の嫡流、五摂家筆頭の家柄である近衛家が長年伝襲した『御堂関白記』など10数万件に及ぶ古典籍・古文書・美術品を保管するために、1938年、当時の内閣総理大臣で近衛家29代当主近衛文麿により、設立された。財団法人陽明文庫は、2012年より、公益財団法人となり、近衛家に伝来した歴史的又は美術的に重要な史料・古文書・典籍その他の物品を保存管理するとともに、これらの調査研究により学術上・社会教育上の効用に供し、日本の歴史や美術の研究に資することを目的としている。2008年度から科学研究費(学術創成研究費・基盤研究(S))により、陽明文庫(管理者：名和修文庫長)のご理解を得て、『御堂関白記』など同文庫所蔵資料の全目録のデータベース化、高精細デジタル画像の作成と公開準備を進めているが、今回は『週刊朝日百科 新発見! 日本の歴史』15号 平安3をテキストに、「御堂関白記」を襲蔵した近衛家文庫の歴史、「御堂関白記」自筆本・古写本の特徴、「御堂関白記」等に見える藤原道長の政務と学問についてお話ししたい。